



空飛ぶ
クルマ

Ehang
216

SPACE is OPEN !!

空の移動革命 最前線。

2025年に向けた瀬戸内からのチャレンジをともに。



MASC

OKAYAMA KURASHIKI MIZUSHIMA
AERO & SPACE INDUSTRY CLUSTER STUDY GROUP

「空飛ぶクルマ」 実用化に向け飛行ルート検討 倉敷市の団体

09月04日 09時56分



倉敷市の中小企業などで作る団体は、新たな移動手段として実用化を計画する「空飛ぶクルマ」について、瀬戸内海でビジネスを行うため、飛行ルートの検討を始めました。

倉敷市の中小企業などで作る一般社団法人「MASC」が検討し

ているのは、瀬戸内市の牛窓と香川県の小豆島の間、玉野市の宇野と香川県の直島の間、それに倉敷市の鷲羽山を起点に瀬戸大橋の近くを周遊する3つのルートです。あらかじめプログラムされたルートを遠隔操作で飛行する空飛ぶクルマですが、正常に動くか、団体はルート周辺での通信環境について、ヘリコプターを使い調べているということです。

団体は、これまで笠岡市などで試験飛行を繰り返し「大阪・関西万博」が開かれる再来年をめどに、実用化しようと計画を進めています。

MASCは「瀬戸内海は、気候や海が穏やかで、空飛ぶクルマの実用化には最適な環境だ。地元でのビジネス化に向けて準備を進めていきたい」としています。

一般社団法人 MASC の空飛ぶクルマに関する取り組み実績

2023年

- 3月・淀川河川公園 枚方地区での無人飛行、セミナー開催(枚方市)
- 2月・笠岡ふれあい空港での有人飛行(笠岡市)
 - ・別府湾での海上・有人飛行(大分市/田ノ浦ビーチ)

2022年

- 11月・HANAZONO EXPOで展示(東大阪市)
- 9月・フライングカーテクノロジー(東京ビッグサイト)で展示
 - ・東京都主催「未来のエアモビリティ体験フェス」(羽田空港)で展示
 - ・羽田イノベーションシティでの展示
- 8月・姫路商工会議所主催「Himeji SDGs EXPO 2022」にて展示
- 7月・四国初の無人飛行/80kgの物資積載(坂出市)
 - ・近畿初の無人飛行/大阪湾での飛行、万博機運醸成(尼崎市)
 - ・九州初の無人初飛行/高低差のある2地点間飛行(大分市)
 - ・広島県初の無人飛行/海上を含む試験飛行(福山市)
- 3月・「空の移動革命に向けた官民協議会」への参加・プレゼンテーション

2021年

- 12月・60kg搭載、近隣農場の上空を含む約1kmの巡回飛行(笠岡市)
 - ・長距離電動旅客級AAV・VT-30の注文を発表
 - ・福島県口ポットテストフィールドでの実験に成功(浪江町)
- 6月・日本初、国土交通省認可による屋外での無人飛行に成功(岡山県笠岡市)



空飛ぶクルマに関する試験飛行の許可実績
全17回のうち、10回MASC主催、1回支援。

(国土交通省発表/2023年7月現在)

次世代モビリティ瀬戸内コンソーシアム 2022年2月26日設立

◆商工会議所 : 9
岡山・倉敷・笠岡
児島・玉島・玉野
備前・姫路・福山

瀬戸内の離島の数 727島
うち、有人離島の数 108島
有人離島の住民数 78,535人

- A 離島の活性化
- B 2025年「大阪・関西万博」によるインバウンド観光への対応
- C 次世代人材の育成と輩出
- D 1次産業（漁業（養殖を含む））への航空宇宙関連技術の利活用
- E イノベーション拠点の整備

◆商工会 : 3
備前東
土庄町・小豆島町

アドバイザー・・・中野冠先生（慶應義塾大学）
会長・・・井上峰一（倉敷商工会議所）

□オブザーバー : 3
広島商工会議所
丸亀商工会議所
徳島商工会議所

◆その他 : 1
一般社団法人MASC



④ 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業

(1) 飛行実証等ビジネス化に資する取組み

■ 申請者・実施体制

<申請者>



- 一般社団法人MASC

<協力事業者>

- サンワエアロスペースインダストリー株式会社
- 株式会社パソナグループ
- オリックス株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 株式会社日本空港コンサルタンツ
- 株式会社AirX
- 株式会社トラジェクトリー
- アリアル・イノベーションLLC
- EHang Holdings Limited

■ 今後のロードマップ

2025年度

国外訓練の実施
中核基地等の事前準備

2026年度

国内訓練の実施
中核基地等の整備

2027年度以降

事業会社の設立および事業一部開始
事業用機体導入

(2) ビジネスモデルの検証に資する取組み

■ ねらい

2030年代に関西・瀬戸内エリアが“空の廊下”で結ばれ、より自由に・より活発に空の移動が実現する社会の実現をめざす。

■ 今年度事業概要

- 水上での離着陸場の活用シーン・構造要件・整備コスト・法制度における課題についての調査
- 空飛ぶクルマの社会受容性向上に向けた取り組み

<実証イメージ>

水上での離着陸場(イメージ)



フォーラムのイメージ

